

1. スタッフ（2018年4月1日現在）

部 長 (教 授) 堀江 久永
副 部 長 (准 教 授) 五十嵐 孝
医 員 (講 師) 丹羽 康則
(中央材料室 室長)
(学内准教授) 森澤 雄司
(中央材料室 室長補佐)

自治医科大学中央手術部は昭和47年に開設され、平成14年8月新棟竣工とともに新館手術室へ移転し現在に至っている。手術室の構造は回収廊下型となっており、清浄度クラス1000の手術室4室とクラス100の手術室が13室の合計17室で構成されている。2006年にとちぎ子ども医療センター内に手術室2室が追加された。

平成14年の新棟移転にともない、病棟情報システム構築の第一歩として、まず麻酔記録の電子化が行われ(J-CAN：Jichi-Clinical Advanced Network System)、平成18年からは院内の電子カルテシステム(JUMP：Jichi Medical University Universal Medical Information Program)と連携しており、手術申込み、手術記録、保険情報記録、看護記録などがすべて一元管理となっている。

中央手術部に併設される形で中央材料室を備えており、医師２名（兼任）と専任の主任看護師を配置し、委託業者と共に手術機器の点検、消毒業務を行っている。滅菌業務の増加に伴い2015年より24時間稼働している。

現代の進化する手術に対応するべく、医療機器を毎年更新、整備している。手術室にはモニター用カメラが設置され手術室内の状況をコントロール・ルームで監視することができ、またこれとは別に手術野の映像をプラズマディスプレイに表示し、臓器移植手術の進行の調整や学生・研修医の教育、学会の発表などに用いられている。2015年より医療ロボット（da Vinci）も導入され、ロボット支援前立腺全摘除術が増加している。2016年1月からはハイブリッド手術室にて経カテーテル大動脈弁植え込み術（Transcatheter Aortic Valve Implantation：TAVI）が開始された。

2017年の月別手術件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
予定手術	591	632	690	592	571	637	
緊急手術	140	138	176	143	129	139	
計	731	770	866	735	700	776	
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
予定手術	605	669	594	664	634	605	7484
緊急手術	121	146	133	127	168	170	1730
計	726	815	727	791	802	775	9214

2016年と比較して予定手術は261件増加、緊急手術は30件減少、総数では231件増加した。緊急手術の割合は18.8%であった。

当院の特徴は緊急手術が多いことで毎年総手術件数の約20%を占めている。手術部スタッフの業務負担を増加させずに大学病院らしい難易度の高い新しい手術を増加させることを目標に手術部運営を行っている。平成30年（2018年）には病院リニューアルにより新たに4室の稼働が予定されている。4室のフル稼働を目標に手術部スタッフの増員を行い地域医療の拠点としての救急医療と、大学病院としての高度な医療の提供の両立を図る。